施設キャラクター「ひまわりちゃん」

体系的に交通安全を学ぶ
体験的に交通安全を学ぶ
楽しみながら交通安全を学ぶ

交通安全学習センター オープン

4月1日(木)午前9時

オープニングセレモニー
4月1日(木)午前8時40分から松平わ太鼓、くす玉開きなどを行います

交通事故を減らすために効果的な交通安全教育を実施する拠点施設「豊田市交通安全学習センター」が4月1日(木)にオープンします。団体に対しての交通安全教室のほか、幼児から高齢者まで、どなたでも施設を利用できます。

施設概要

■ところ　池田町小山田494－24
■利用時間　午前9時～午後5時
■休業日　月曜日(祝日、振替休日を除く)
■主な施設　遊戯施設(ゴーカート、ミニ列車)
交通安全学習館(体験学習コーナー、シアターなど)
市街地模擬路施設(道路、信号機、家屋などの模擬施設)
■入場料　無料(ゴーカート、ミニ列車は有料)
ゴーカート(2人乗り)／50円
ミニ列車　／50円(3歳以下無料)

※交通安全学習センターは、PFI(民間の資金とノウハウを活用し、公共施設などの設計・建設・維持管理・運営を行う公共事業の手法)により民間事業者が運営します

4月6日(火)からの平日の一般利用について

火～金曜日は、園児、小学生、老人クラブなどの団体への交通安全教室が実施されます。
※自由に入場し、各施設を利用してていただくことができますが、シアター、体験コーナー、ゴーカート、ミニ列車、模擬路などを交通安全教室で団体利用している時間は、利用できない場合があります

遊戯施設

■ゴーカート

■ミニ列車

※交通公園(平芝町)は3月31日(水)で閉園します。閉園に伴い「交通公園さよならイベント」を開催します。詳細は本号21ページをご覧ください

交通安全学習館

体験学習コーナー

目・耳・バランス・状況判断能力診断、自転車シミュレーター、自動車シミュレーター、交通安全クイズ、高齢疑似体験、標識ボード、ＩＴＳ紹介コーナーなどで自主的に学習できます。

参加体験型シアター

施設キャラクター「ひまわりちゃん」と一緒に座席にあるボタンを使い、みんなでクイズなどにチャレンジ。テレビスタジオのようなライブカメラによる演出などで、会場全体が一体となったコミュニケーション。参加して考える、楽しみながら交通安全を学ぶことができます。

座席数／98席

340インチ超ワイド画面

「バーチャルステージ」は、歩行者視点での実地体験では実感しにくい道路の危険を３Ｄ映像(立体映像)により、疑似体験することができます。

市街地模擬路施設

道路・横断歩道・信号機・踏切・家屋などの模擬施設や広場・遊具などの屋外施設です。

見通しの悪い交差点、自転車歩行者道など、実際にある街の道路環境などを再現し、交通安全を学ぶことができます。貸し出し自転車、おもしろ自転車などに無料で乗車できます。

交通アクセス

豊田市駅より名鉄バス(矢並公民館前経由足助行き、または鞍ケ池東行き)で約20分、「岩滝」バス停下車徒歩５分

駐車場に限りがあります。できる限り公共交通機関をご利用ください。４～５月の土・日曜日、祝日は、シャトルバスを運行します。

■臨時シャトルバス運行(無料)

●運行日／４～５月の土・日曜日、祝日

●運行ルート

①名鉄トヨタホテル前⇔交通安全学習センター

②鞍ケ池公園北駐車場⇔交通安全学習センター

※時刻表、乗降場所の詳細は、交通安全学習センターのホームページ(http://www.kotsuanzen.jp)で確認してください

問合せ●交通安全課(☎34･6633)

※４月１日(木)からは市交通安全学習センター(☎88･5055)

を目指して

○問合せ　学校教育課（☎34・6662）

これからの豊田の教育を支える「若い力」を育てています

教育センターでは、近隣大学との教育連携の一環として、将来豊田市で教職に就くことを目指す学生のために「教師養成講座」を実施しています。毎回、授業のつくり方や学級経営、生徒指導など、大学の講義とは一味違う、より実践的なテーマを設定し、前半に講話、後半に実習という構成で学習の場を提供しています。

受講生は、学校も学年も様々ですが、将来豊田市で教職に就くことを希望しており、目的意識をしっかりともって、熱心に受講しています。これまでの講座の様子と受講生の感想を一部紹介します。

１時間の組み立て方
～単元と１時間、導入と終末～（第４回）

授業の導入について考えてみました。教師は、これを毎日考え、いかに生徒を引きつける授業にするか工夫しているのだと思うと、やはり大変そうです。

授業の導入方法について話し合い模擬授業を行いました

縁の下の力持ち、板書
～板書の役割と技術、上手な板書～（第６回）

板書についてこんなに詳しく聞いたのは初めてで、とても勉強になりました。黒板では普段のようには書けなくてとても苦労します。しかし、見やすい板書が子どものためになると思うので、今日学んだことを生かして頑張りたいと思います。

授業を想定し、実際にチョークで文字や図を書いてみました

環境が人を育てる
～教室掲示を充実させるアイディア～（第７回）

掲示物作成では、グループで相談しながらできたので、どう工夫すればよいかの勉強にもなりました。今回のポイントを生かして、よい掲示物をつくってあげられる教師になりたいと思いました。

教室掲示のアイディアを出し合い協力して掲示物を作成しました

教師養成講座の内容

①教師の仕事と心構え、そして、やりがい
　教師の１日・１年、教師の立ち居振る舞い

②一人ひとりを見る、寄り添う
　個への支援、特別支援の重要性

③教えることと学ぶこと
　目的意識、方法意識、学習形態

④１時間の組み立て方
　単元と１時間、導入と終末

⑤よい発問・悪い発問
　発問の切れ、指名の方法、発問の種類

⑥縁の下の力持ち、板書
　板書の役割と技術、上手な板書

⑦環境が人を育てる
　教室掲示を充実させるアイディア

⑧かかわり合いのある授業
　話し合いを組織する、演出する、支援する

⑨担任としての判断と行動
　問題発生！　その時どう考え、どう行動するか

⑩教師を目指すみなさんへのメッセージ
　先輩である新任教諭からのアドバイス

各回の講座の様子は、市教育センターホームページ(http://www.toyota.ed.jp/kyoiku-center/)で詳しくご覧いただけます。平成22年度の教師養成講座受講生募集要項及び受講申込書は、３月５日(金)から市教育センターホームページでダウンロードか、市教育センター(保見町、☎48・2051)で配付します。

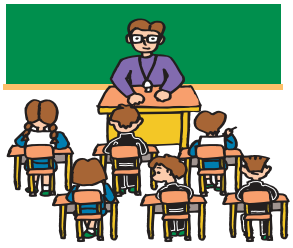
※募集の詳細は本号19ページをご覧ください

特集

豊田市のより良い教育

豊田市では、これからの教育をさらに充実したものにするために、様々な特色ある取組を展開しています。

今回はその中で、市が平成16年度から実施し、拡大しながら継続して取り組んでいる「少人数学級」と、平成21年度から開設した「教師養成講座」（市教育センター）の取組を紹介します。



市独自の「少人数学級」を取り入れ個への配慮に努めています

市では、個に応じた細やかな指導と、児童・生徒の学校生活への適応や学力向上を図るために、国や県の基準を上回る独自対応の少人数学級を実施しています。

平成21年度は、小学１～３年生、中学１年生の少人数学級に加え、新たに中学２年生を市独自の35人学級としました。中学２年生は、精神的に不安定になりがちな発達段階にあるといわれます。教員が、個々の生徒に細やかな配慮をすることで、一人ひとりの生徒が目標をもって学校生活を送ることができるように支援しています。

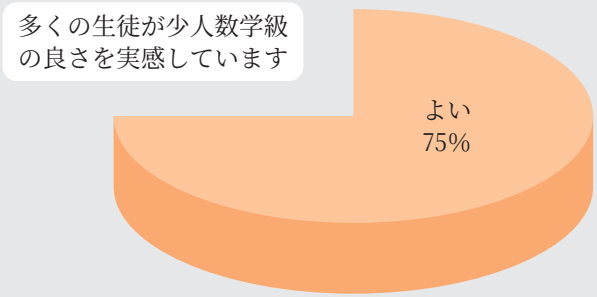
平成21年度少人数学級実施状況

実施学年	市の学級編制基準	県の学級編制基準
小学１年	32人	35人
小学２年	35人	35人
小学３年	35人	40人
中学１年	35人	35人
中学２年	35人	40人

少人数学級を実施してどう思いますか【平成21年７月調査結果より】

●中学２年生（回答2,388人）

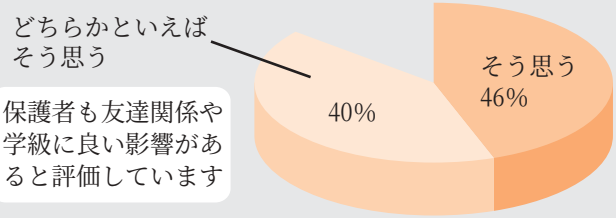
少人数学級はどうですか



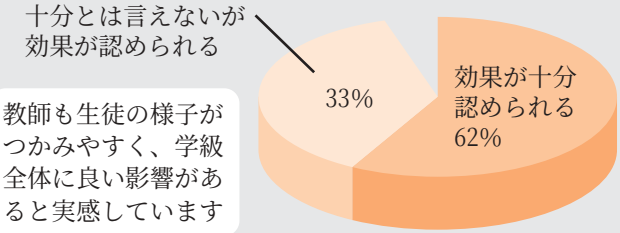
- 理科の実験で、見ているだけでなく自分で取り組む回数が増えて授業が分かりやすくなった
- 体育の授業で、実技の回数が増えて、たくさん運動できるようになった
- 委員会や班長など、いろいろな係をする機会が増えて、やる気がでた
- 学級がまとまりやすく、落ち着いた雰囲気で生活できる
- 授業中に先生に質問することが増え、個別に教えてもらう機会も増えた
- 先生にノートやプリントをよく見てもらえる
- 担任の先生に相談に乗ってもらいやすくなった

●中学２年生の保護者（回答1,709人）

友達関係がうまくいっている



- クラス全体がまとまっており、子どもが元気に学校に通っている
- 行事や活動で友達と協力する機会が増え、子どもが積極的になった
- 先生に子どものことをよく理解していただいている

●教師（回答96人）

学級の雰囲気が落ち着いている